

## 1. 基本理念

自分らしい楽しさを想像できる「あたま」  
さまざまなことにチャレンジする「からだ」  
温かくしなやかで優しい「こころ」  
を持つ子ども達が育つ環境構成に全力で取り組み  
子ども達の全てを共感的に見守ります

## 2. 保育方針

恵まれた保育環境の中で一人ひとりの個性を大切にし、その子ならではの興味・関心を育み、健やかに生き生きと園生活を楽しむことを保障しながら子どもを育てます。また、保護者や地域と密に関わりながら、豊かな心を持つ子ども達の成長を見守る関係づくりを目指します。

## 3.

### (1) 保育・教育内容

#### ●未満児クラス

令和 2 年度から導入してきたきらきら保育が 4 年目を迎え、改めて内容の振り返りを行った。生活面の導入としての結果は良いものが得られているが、子どもの発達に焦点をあてた場合、個性を大切に思い、より一人ひとりに寄り添った保育が必要であり、それによって生まれる子どもの変化や成長についての学びを深めていくべきだと感じた。

#### ●以上児クラス

身体を動かすことに苦手意識のある子どもが増えている中、体操教室でも取り入れている 36 の基本動作を保育の中に導入することで、活動に意欲的に取り組むことができ、自己認識へとつなげることができた。また、感覚運動遊びやサーキット遊びを取り入れることで、身体を動かすことの楽しさや体幹が備わるなど、体力・精神面の強化を図ることができた。

食育や外遊びなど様々な活動を通して、子ども自身の好奇心、探求心を大切にしたい保育を行った。以上児においては、小学校生活を見据えながらの保育・教育となるが、この時期にしか経験できない遊びと生活の両方が充実した内容で取り組むことができた。

### (2) 環境整備

昨年屋上に設置した人口芝は、裸足で利用することで足裏の刺激にもなっており、子ど

もの身体の成長に良い影響をもたらしている。加えて、屋上への遊具の設置を行った。天候の良い日は以上児と未満児とのふれあいの場ともなっており、活用時間も増えている。

以前より園庭に設置している滑り台の老朽化が目立ってきたため、子ども達がこれから先も安全に遊べるようにリニューアルを行った。

### (3) 健康及び安全管理

夏場のあそびの環境設定には苦慮した。環境省による熱中症アラート・暑さ指数を確認しながら可能な範囲での外遊びや水遊びを行った。また、熱中症リスクを防ぐために室温・湿度にも気を配り、水分補給への配慮も徹底して行ったため、事故につながるような事はなかった。

年度末から2月にかけて、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症が同時に流行し、消毒の徹底や清掃、マスク着用など感染予防の徹底を行っていたが、症状の出る期間が一定ではなく、感染発覚に時間がかかるなどの理由から、園内での感染を止めることが難しく感染が拡大した。

事故防止委員会を月に1回もしくは必要時に開催し、気付きのあった時点で解消することで事前に防げる事故も多いと感じた。各クラスでのヒヤリハットに関しては、必ず翌朝の朝礼にて全体報告を行うなど、事故防止の徹底を行うようにした。

### (4) 子育て支援・地域交流

毎月発行している地域回覧用のえのみ新聞内での広報などを活用し、積極的に呼びかけを行いながら子育て支援活動を行った。内容も季節行事に基づいたものや、身長・体重などを毎月測定するなど、継続しての利用を検討したくなる内容で取り組んだ。就園前のお子様や保護者のふれあいの場となり、毎回楽しんで活動に参加していただいた。

前年度に引き続き職員一同、月に1度園周辺の清掃活動を行った。子ども達はボランティアとして地域の公園の清掃作業や散歩コースの清掃活動を行い、地域貢献できるような活動を行った。また、今年度は新型コロナウイルス感染症も収束をみせたため、同法人の老人施設訪問を複数回行い、利用者の皆さんに喜んでいただいた。あわせて当園職員が近隣町内夏祭りへの出店や、地域の敬老の集いで催しを行い、地域の方々に喜んでいただけるような活動を行った。

### (5) 保護者支援

開催行事ごとにアンケートを取るようにした。ご意見をいただくことで保護者の要望も明確になり次回開催時に活かせるようになってきている。また、年度末に行う利用者アンケートは、回答がしやすいように内容・形式変更を行った。(アンケート回答期間：R5.2.19～R5.2.26) 回答結果から、園側の意向が伝わっていない部分なども多いことがわかり、年度末の新年度説明会で再度丁寧にお伝えをするなど改善に努めるようにした。回答の中では数多くの労いの言葉をいただき、職員への励みにもなったようだ。

行事に関しては、例年通り各クラスごとなど保護者が気軽に参加しやすい内容で行った。参加していただいた保護者には給食の試食会も行い、日頃子ども達が食べている内容を知ること、食の大切さに気付くきっかけにもなったとの声をいただいた。

#### (6) 職員育成・資質向上

昨今言われている人材不足を懸念し、人材育成にも力をいれるようにした。全職員の面談を半期ごと(9月と3月)及び必要に応じて行い、各クラスや各担当業務に関しての進捗状況等を確認し、現場の声をしっかりと把握できるよう一人ひとりに寄り添う形をとった。

職員園内研修は年間で3回開催した。口からの健康づくり、救急救命法、発達が気になる子どもの関わりとおもちゃについて、実際に保育室で使うおもちゃを作ろう、外部研修での学びを共有、ストレッチでリフレッシュ、フラワーアレンジメントなど様々な内容ですぐに実践や実生活に活かせるものなど楽しみながら学ぶことができたとの職員の声が多かった。また、全体で再度マニュアルの見直しも行い、変更の部分は随時更新を行っていくようにした。